

# 知的障害特別支援学校における 教育課程の編成と評価の一体化

**【本研究の目的】** 個別最適な学びの実現に向けて、知的障害特別支援学校における教育課程の編成と評価の一体化について検討し実践する。

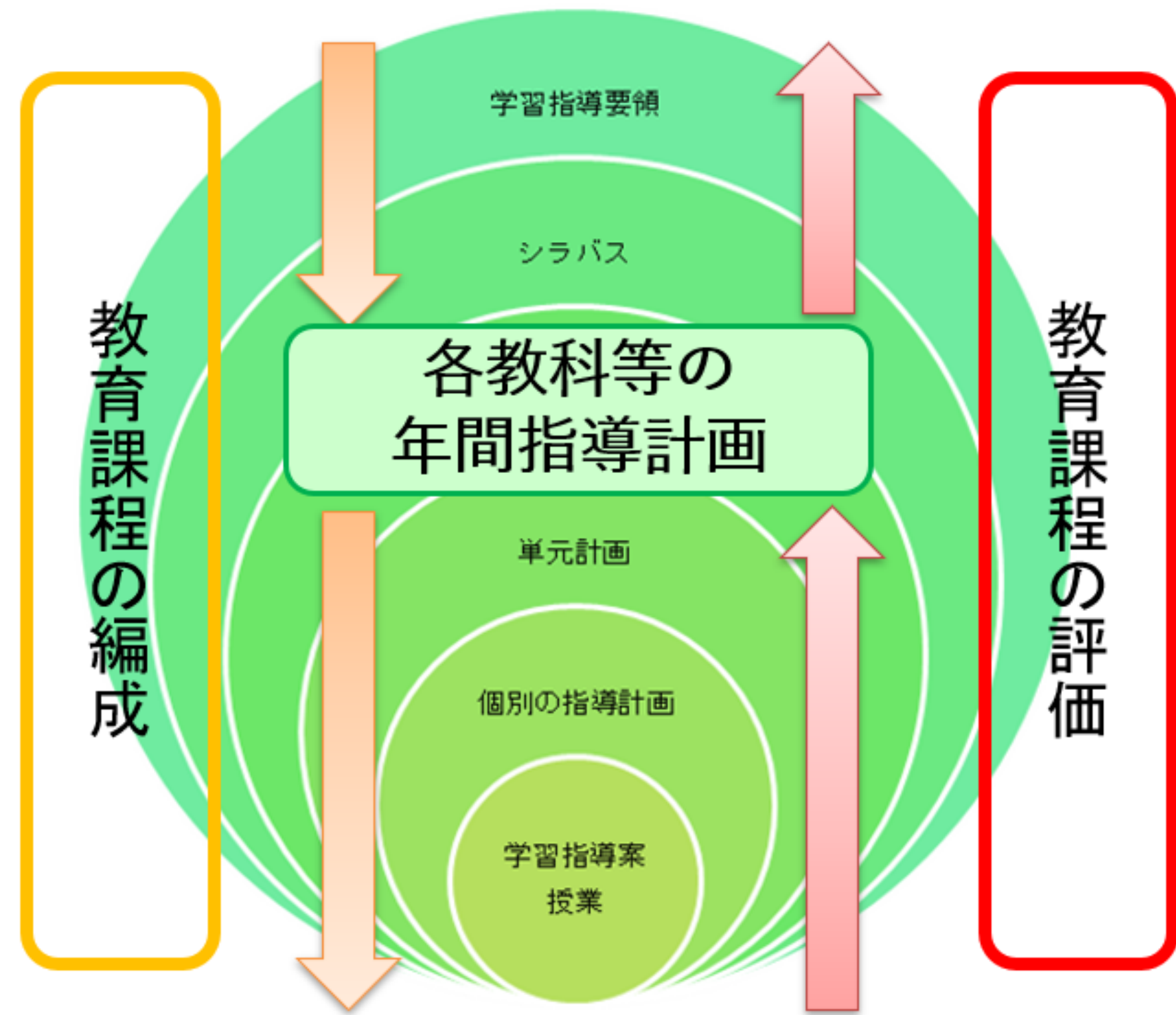


図1 教育課程の編成と評価の一体化

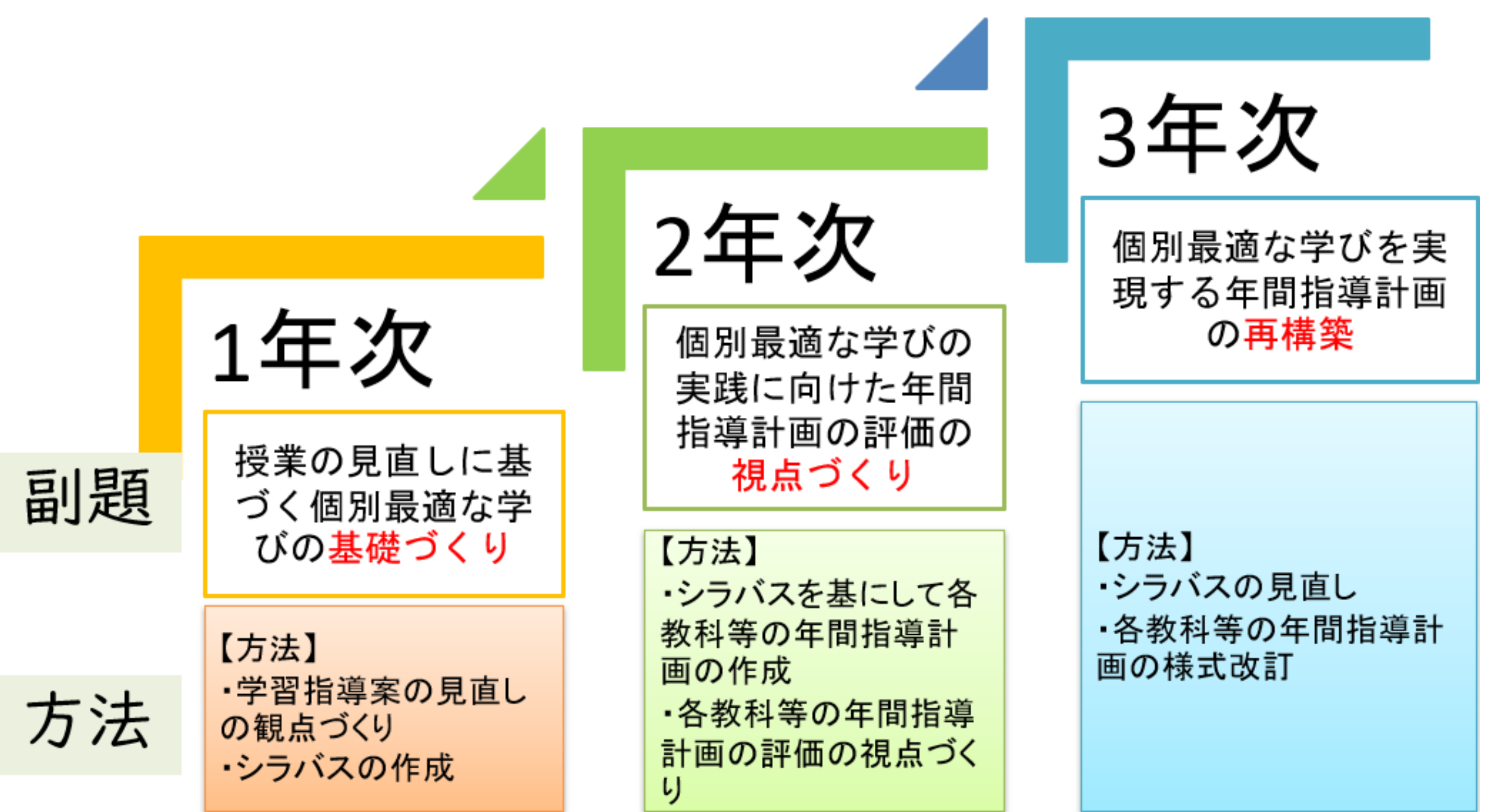


図2 全校研究3年間の副題と方法

## 【今年度の取り組み】

### (1) 「教育課程」の現状共有と「教育課程の位置づけ」の確認

本校教員の「教育課程」の理解に違いがあることがわかった。

指導助言者の今枝先生の研修を受けて「教育課程」を図1とした。

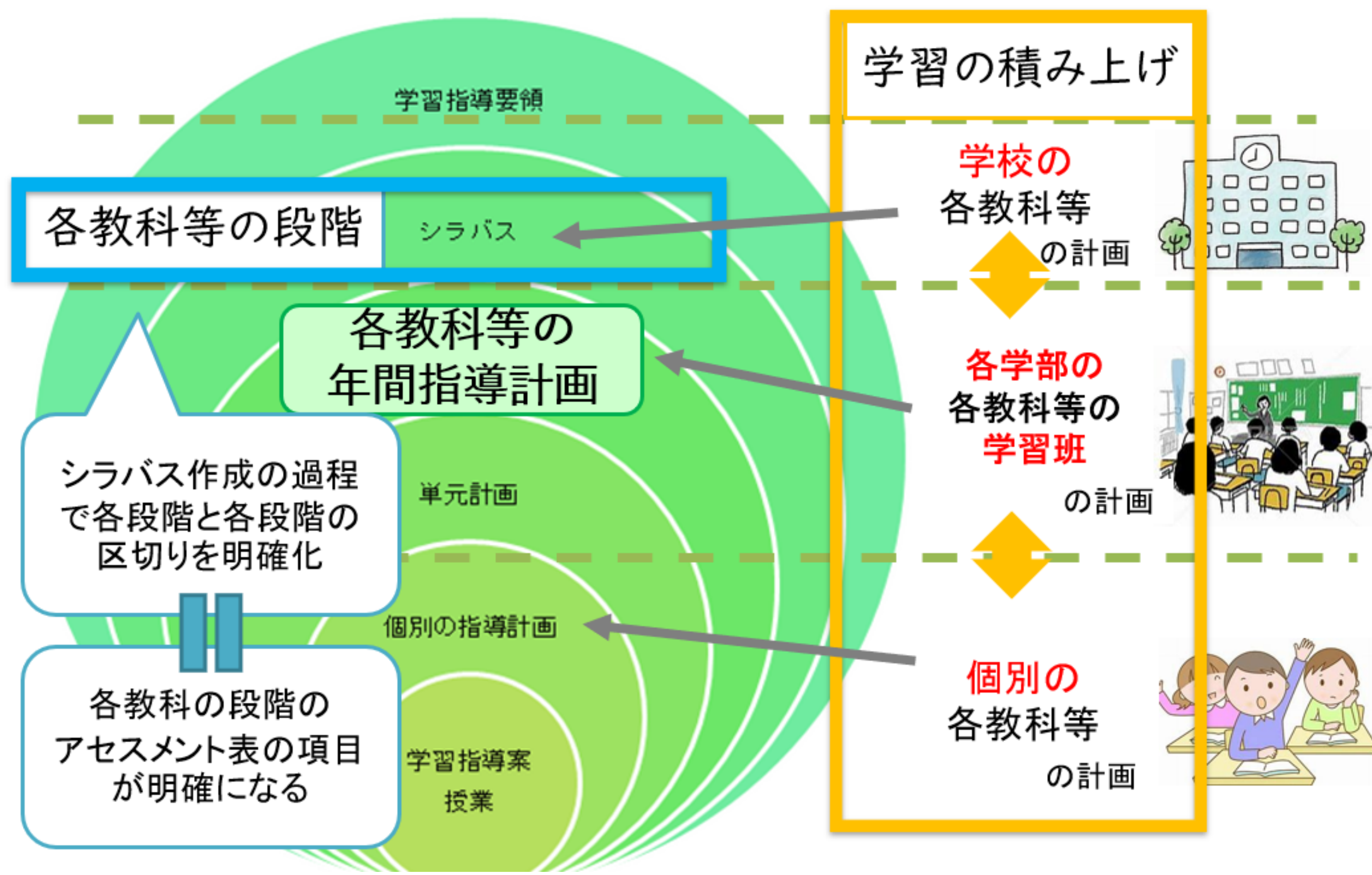
### (2) 授業の見直し

本校教員が自分の学習指導案の見直しを行った。

#### 【見直しでの気づき】

- ① 児童生徒の学習の積み上げをどのように記録するか。
- ② 児童生徒の各教科等の段階をどのように判断するのか。
- ③ 各教科の能力に差がある児童生徒が同じグループで学習する時の授業目標の設定や題材選びが難しい。(特に、実技教科以外)

### (3) 「シラバスの作成の意義」と「シラバスの位置づけ」の確認



### (4) 学習指導案の見直しの観点表の検討

指導助言者の今枝先生の研修「学習指導案からカリキュラム・マネジメントを考える」を受けて、本校の学習指導案の項目ごとに見直しの観点を整理した。

1	単元の目標	今までの学習履歴を踏まえている 3観点での目標が設定されている 「知識及び技能」を活用した「思考力、判断力、表現力等」の目標になっている 「思考力、判断力、表現力等」の目標にこの3つの内容がある 目標の数が絞られている 「学びに向かう力、人間性等」が態度目標として書かれている
2	単元設定の理由	児童生徒の各教科等の段階が書かれている 学習グループの構成(学年、人数)が書かれている 単元目標に関する児童生徒の実態(習得内容・課題・特性)が書かれている 学習指導要領での位置づけが書かれている 教材観 今までの学習とのつながりが書かれている 単元目標達成のためにこの教材を選んで理由が書かれている 他教科や行事とのつながりが書かれている 指導観 全体指導についての指導観が書かれている 単元目標達成のために必要な指導や支援についての考え方が書かれている
3	単元の評価規準	単元目標と一致している 「～していたか・できていたか」「～している・～できている」と書かれている
4	単元の指導と評価の計画	「知識及び技能」→「思考力、判断力、表現力等」→「学びに向かう力、人間性等」の流れで計画している
5	本時の目標と評価規準	単元の目標・評価規準が具体的に書かれている 目標と評価規準が一致している
6	本時の展開	●全体支援は「指導観」と一致している ●全体支援と「☆個別支援」は個別的教育支援計画の「合理的配慮」と一致している 「☆個別支援」は個別の指導計画の「指導・支援の内容」と一致している

※一部省略

### (5) 各教科等のシラバスの検討

6教科のシラバスの検討から始めた。

#### 【6教科を選択した理由】

- ・今年度の取り組み(2)の気づき③
- ・段階ごとで内容が変わる教科
- ・複式学級や縦割りの学習グループで授業を行っている教科

国語
算数・数学
社会
理科
生活
体育・保健体育

### 【次年度に向けて】

- (1) シラバスの検討を継続して、児童生徒の学習の積み上げが明確な系統性のある学習を実施できるように検討を進めていく。
- (2) 各教科等の年間指導計画の評価の視点を検討する。